

現象学研究会

概要

今年度は現象学の創始者エドムント・フッサールの古典的なテキスト『イデーンI』の読書会を活動の軸として、以下の3つの課題に取り組む。

- 課題1：現象学と科学的实在論との関係の解明。
- 課題2：現象学の方法論や基礎概念をメンバー各人が習得する。
- 課題3：個人の研究課題の発展に寄与する新しい視座をメンバー各人が獲得する。

『イデーンI』は現象学のもっとも代表的な著作であり、本研究会メンバーの多数が強い関心を寄せている。「現象学的還元」という方法論と、「ノエシス・ノエマ」という現象学独特の概念をメンバー各人が身に着けることで、それぞれの研究課題に活かすことが本会の目的である。

また、読書会の質疑応答では、課題1と関連して、科学的な实在論と現象学的なものの方との関係を中心的なテーマにして、質疑をおこなった。

運営方法

場所: zoomミーティング

頻度: 月に1回

形態: ①読書会 ②研究発表・議論

- ①あらかじめ設定した共通課題についての討議や読書会
- ②各自の専門分野について初修者にも分かり易く20分で報告 質疑応答と議論

活動内容

◇読書会

E.フッサール『イデーンI』

超越論的現象学という方法論を明確に打ち出した20世紀で最も重要な哲学書の一つ
特に重要な以下の箇所を読解した。

第二篇 現象学的基础考察

- 第一章 自然的態度のなす定立と、その定立の遮断
- 第二章 意識と自然的現実
- 第三章 純粹意識の領域
- 第四章 現象学的還元

第三篇 純粹現象学の方法態度と問題探究のために

- 第三章 ノエシスとノエマ

メンバー・研究内容

- 蛸子 良風 フッサール、レヴィナスの現象学
- 宮内 沙也佳 アメリカにおける肥満表象の研究
- 若杉 直人 バタイユにおけるミメシスについて
- 森 敬洋 ユング精神分析や音楽評論
- 坂東 行雅 デリダとフッサールの言語論
- 堀尾 萌子 フッサールの自我論の研究
- 宮野 瑠花 メルロ＝ポンティの哲学
- 苧野 美雪 フッサール現象学

各回の内容

- 第一回: 読書会の運営方針に関するミーティング
内容(読書会範囲の決定)
- 第二回: 『イデーンI』第二七節から第三四節
内容(現象学的エポケーについて)
- 第三回: 『イデーンI』第三五節から第四一節
内容(志向的分析について)
- 第四回: 『イデーンI』第四二節から第四六節
内容(内在性と超越性)
- 第五回: 『イデーンI』第四七節から第五二節
内容(内部知覚と外部知覚)
- 第六回: 『イデーンI』第五三節から第六二節
内容(さまざまな超越物へのエポケー)
- 第七回: 『イデーンI』第八七節から第九六節
内容(ノエシスとノエマ)
- 第八回: 総括と今後の展望

【通算8回開催】

※上記を除く2回は運営計画協議等を実施

